

分担研究報告書

若年がん患者の心理社会的状況調査（分担研究課題名）

研究分担者 西山博之 筑波大学医学医療系 教授

研究要旨

若年成人男性がん患者の心理社会的状況が、健康な同年代の男性と異なるか、および精子凍結をした人としなかった人とで異なるかを明らかにするため、自記式アンケートによって現在の心理状況、QOL の差を評価する。

A. 研究目的

若年成人男性がん患者の心理社会的状況が健康な同年代の男性と異なるか、および精子凍結をした人としなかった人で異なるかを明らかにする。

精子凍結保存を行った若年成人男性がん患者がいかなる不安を抱え、どのような心理社会的サポートを必要としているかを現在分析中である。

B. 研究方法

精巣腫瘍・造血器腫瘍・骨軟部腫瘍のいずれかに罹患したことがある人と、これまでがんと診断されたことがない健康な、かつ現在 20-49 歳の男性 300 人を対象に自記式アンケートで曝露群と非曝露群とで現在の心理状態、男性 QOL の差、精子凍結した者としなかった者で現在の心理状態、男性 QOL の差を評価する。当分担施設では精巣腫瘍のサバイバーを対象に回答者を集める。

E. 結論

若年成人男性がん患者の精神的健康を改善し QOL を向上させ、挙児を希望する患者の自己決定という尊厳を守るため、本研究を継続中である。

C. 研究結果

当分担施設では本研究の趣旨を十分に理解し同意が得られた者を対象に、精子凍結しなかった者 12 名、精子凍結した者 2 例からアンケートの回答を得た。

D. 考察

回答内容については研究代表者がデータセンターとなりマネジメントを行っている。